

2024年10月15日

各位

株式会社 宮崎銀行

【九州・沖縄地銀連携協定:愛称Q-BASS】
九州大学、台湾・陽明交通大学および九州経済連合会との
「半導体・日台協業PJ」への参画について

株式会社宮崎銀行(頭取 杉田 浩二)は、「新生シリコンアイランド九州」の実現に向けた九州・沖縄地銀連携協定(2024年1月締結)に参加する地方銀行他12行とともに、九州大学と台湾・陽明交通大学および九州経済連合会との「半導体・日台協業プロジェクト」に参画しましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 「半導体・日台協業プロジェクト」の概要

2023年9月、九州大学と台湾の陽明交通大学は、人材交流や共同研究開発に係る覚書を締結し、半導体分野においては、“産官学金連携の枠組みを活用した地域企業の半導体サプライチェーン参入”を目標の1つに掲げました。

九州においては、熊本県菊陽町に新工場を建設した半導体受託生産の世界最大手、台湾積体回路製造(TSMC)を中心とした半導体サプライチェーンが今後新たに形成されていくものと見られており、地域の半導体関連企業はサプライチェーン参入の機会を伺っています。

そのため、九州大学と陽明交通大学は、九州経済連合会や九州半導体・デジタルイノベーション協議会(SIIQ)、九州・沖縄地銀連携協定(Q-BASS)のネットワークを介し、地域企業と台湾TSMCサプライヤー企業における人材面と技術面での交流を促進し、地域企業の技術習熟度向上の伴走支援を行うことで、地域企業の半導体サプライチェーン参入を目指すべく本プロジェクトをスタートいたしました。

本プロジェクトは、“大学の知識・技術に基づくハンズオン支援”が大きな特徴となっております。



2. 九州・沖縄地銀連携協定の役割

九州・沖縄地銀連携協定は、九州・山口・沖縄を網羅する13行のお取引さまネットワークを活用することで「半導体・日台協業プロジェクト」に参画し、九州大学、陽明交通大学および九州経済連合会と協業することによって、“地域企業のサプライチェーン参入支援の成功モデル”を作っています。

なお、九州・沖縄地銀連携協定は当初11行(注1)で発足しましたが、2024年5月に、山口銀行と北九州銀行の2行が加わり、13行連携体制となりました。今後は、Q-BASS(注2)の愛称で活動し、「新生シリコンアイランド九州」の実現に向けて、13行が一体となって九州・沖縄・山口経済のさらなる成長を目指してまいります。

(注1)当初発足時の11行(五十音順、株式会社省略)

大分銀行、沖縄銀行、鹿児島銀行、佐賀銀行、十八親和銀行、筑邦銀行、西日本シティ銀行、肥後銀行、福岡銀行、宮崎銀行、琉球銀行

(注2)Q-BASS(読み方:キューベース)

Q-BASSは、「Kyushu-Okinawa Banking Alliance Semiconductor Solution」の頭文字を取った愛称になります。九州・沖縄のQIには「無限大」の意味を込めて名付けております。



以上

本件に関するお問い合わせ先
株式会社宮崎銀行 ビジネスソリューション部
担当:清野・菅原
TEL:0985-32-8329